

「空」から「宙」へ

今日もJALグループの翼をお選びいただき、ありがとうございます。

夜風が心地よい季節になりました。夜空には春の星座が見頃を迎え、天体観測を楽しむ絶好の機会となります。今年は、そんな夜空を特別な想いを持って見上げる日が多くなりそうです。

1月に日本の民間宇宙スタートアップ アイスペース ispace社が打ち上げた月着陸船が、間もなく月に到達しようとしています（*）。実はこの月着陸船に、当社も部品輸送や技術支援といった形で長年携わっています。2年前の挑戦は惜しくも月面着陸まであとわずかというところでしたが、「一度の失敗で終わりにしてはいけない、次の失敗を恐れ挑戦することをあきらめないで欲しい」という ispace 社の思いに大いに共感し、今回の再挑戦をグループをあげて応援しているところです。

人類が初めて宇宙に行ってから60年以上が経ちますが、宇宙はいまだ多くの謎に満ちています。それらをひもとき、無限の可能性に一つ一つ挑戦していくことは、地球の未来を創ることにもつながるはずです。JALグループもさまざまな形で宇宙への道を拓こうとしています。飛行機は高度10kmほどを飛行していますが、ここから視線をぐっと上げた高度30km、宇宙の入り口ともい



える成層圏では、気球による宇宙遊覧体験の実現に携わっています。さらに、高度400kmの国際宇宙ステーションと、大分県が開発中の宇宙港とをつなぐ宇宙輸送、そして38万km彼方では月における資源探査や物資輸送の支援——と、多くの関係する皆さまと共に、宇宙の未来に挑戦しています。一見、航空とは異なる分野にも思える宇宙ですが、「安全・安心に人や物を運ぶ」という根幹には共通するものがあります。何より、これまで培ってきた技術やノウハウ

を「空」から「宙」へと広げていくことに大きなやりがいを感じているのは、他ならぬ社員たちのようです。社内での宇宙関連イベントはあつという間に満席になるなど、その情熱に圧倒されることもしばしばです。

JALは、これからも日本の航空インフラを支えるという使命を果たすために、ドローンや空飛ぶクルマの実装にも歩みを進めています。そして創立100周年を迎える頃には、「本日は宇宙ステーション行き」JXX便にご搭乗いただき、ありがとうございます——このようなアナウンスが現実のものとなっているかもしれません。皆さまのご搭乗を、心よりお待ちしております。

イラスト／山本祐希子

とっとりみつこ／1964年、福岡県久留米市生まれ。1985年4月入社（客室乗務員）。2019年に客室安全推進部長、2020年に執行役員 客室本部長、2022年に常務執行役員 客室本部長、2023年に専務執行役員 カスタマーエクスペリエンス本部長に就任。同年6月に代表取締役専務執行役員、グループCEOに就任し、翌2024年4月から現職。趣味は音楽鑑賞と大河ドラマを見ること。



たびとりどり

代表取締役社長グループCEO

鳥取三津子